

I 畜産関係業務

1 指定食肉

(1) 牛肉

平成23年度の東京及び大阪の中央卸売市場における牛枝肉省令規格(去勢牛「B-2」及び「B-3」)の平均卸売価格は、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故により、放射性セシウムに汚染された稲わら等の給与が原因で牛肉から食品の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことによる風評被害により、前年度を20.8%下回った。こうしたことから卸売価格は、10月以降、12月を除き全ての月において安定基準価格(815円/kg)を下回って推移したものの、国産牛肉信頼回復対策事業の実施等により、価格は回復傾向で推移したことから、機構による買入れ等の措置には至らなかった。(表1)

表1 牛枝肉卸売価格の推移

年度・月	省令価格(去勢牛肉「B-3」及び「B-2」)	
	東京・大阪加重平均	
	価格 (円/kg)	対前年比 (%)
平成18年度	1,292	96.7
平成19年度	1,186	91.8
平成20年度	1,083	91.3
平成21年度	1,034	95.5
平成22年度	1,122	108.5
平成23年度	889	79.2
平成23年4月	1,181	104.8
5月	1,108	101.2
6月	1,019	100.4
7月	944	92.1
8月	1,010	95.4
9月	871	79.7
10月	737	64.3
11月	775	66.5
12月	820	64.6
平成24年1月	797	68.9
2月	790	67.8
3月	814	71.6

資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税込みの価格である。

(2) 豚肉

平成23年度の東京及び大阪の中央卸売市場における豚枝肉省令規格（「上」以上）の平均卸売価格は、前半は、平成22年夏場の猛暑による受胎率の低下から、出荷頭数が前年を下回ったことに加え、牛肉からの代替需要もあり、卸売価格は前年を上回って推移した。しかし、後半は、出荷頭数や輸入量の増加により、卸売価格は前年を下回って推移し、年度平均では前年度を4.0%下回った。また、卸売価格は、10月と11月に安定基準価格（400円/kg）を下回って推移したものの、12月以降、価格は回復傾向で推移したことから、機構による調整保管等の措置には至らなかった。（表2）

表2 豚枝肉卸売価格の推移

年度・月	省令規格	
	東京・大阪加重平均	
	価格 (円/kg)	対前年比 (%)
平成18年度	479	101.3
平成19年度	519	108.4
平成20年度	496	95.6
平成21年度	431	86.9
平成22年度	474	110.0
平成23年度	455	96.0
平成23年 4月	493	116.3
5月	490	101.4
6月	547	101.7
7月	538	110.0
8月	502	101.0
9月	451	86.9
10月	373	85.4
11月	398	91.1
12月	450	96.2
平成24年 1月	427	100.5
2月	430	85.7
3月	413	85.0

資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税込みの価格である。

2 鶏卵

平成23年度の鶏卵の平均卸売価格（東京、M規格）は、輸入卵の増加等により供給量が増加したことから、年度平均では前年度より2.6%値下がりしたものの、機構による調整保管等の措置には至らなかった。

なお、（社）全国鶏卵価格安定基金及び（社）全日本卵価安定基金による価格差補てん事業では、平成23年度は6月から10月と1月から3月に標準取引価格が補てん基準価格を下回ったため、両基金から総額128億9029万円の補てん金が事業参加生産者に交付された。（表3）

表3 鶏卵価格の推移（東京、M規格）

月	卸売価格				鶏卵価格安定制度の発動状況			
	平成22年度		平成23年度		平成22年度		平成23年度	
	東京「M」 (円/kg)	対前年比 (%)	東京「M」 (円/kg)	対前年比 (%)	標準取引価格 (円/kg)	補てん単価 (円/kg)	標準取引価格 (円/kg)	補てん単価 (円/kg)
4月	177	102.4	245	138.4	172.44	7	237.24	0
5月	178	106.8	213	119.7	175.76	4	207.23	0
6月	183	114.5	190	103.8	176.48	1	181.94	0.954
7月	177	114.7	170	96.0	177.29	3	167.19	14.229
8月	166	105.5	167	100.6	171.51	8	165.52	15.732
9月	193	103.1	183	94.8	195.66	0	177.96	4.536
10月	197	106.8	186	94.4	194.61	0	177.96	4.536
11月	206	109.7	194	94.2	203.13	0	187.79	0
12月	240	114.7	195	81.3	233.53	0	190.46	0
1月	184	122.0	149	81.0	178.27	2	138.37	24.300
2月	203	104.6	185	91.1	202.03	0	178.44	4.104
3月	217	122.3	178	82.0	211.55	0	165.98	15.318
平均	193	110.4	188	97.4	—	—	—	—
補填基準価格	—	—	—	—	181	—	183	—

資料： J A全農たまご株式会社

注1： 卸売価格は消費税を含まない。

3 指定乳製品

(1) 概況

ア 乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数

飼養戸数は、昭和38年の41万7600戸をピークにその後毎年減少し、平成24年2月1日現在では前年に比べて4.3%減の2万100戸となった。近年における戸数の減少は、経営者の高齢化と後継者不足等に加え、飼料価格の高騰など酪農情勢が厳しさを増していることにより、中小規模層を中心に離農するケースが増えたためと考えられる。

次に、飼養頭数について見ると、飼養戸数の減少を反映して、前年に比べて1.2%減の144万9000頭となった。飼養戸数の減少と規模拡大傾向を反映して、1戸当たりの飼養頭数は、前年の69.9頭から72.1頭とやや増加した。(表4)

表4 乳用牛の飼養戸数・飼養頭数

区分 調査年月日	飼養戸数		飼養頭数		1戸当たりの飼養頭数	
	戸数 (千戸)	前年比 (%)	頭数 (千頭)	前年比 (%)	頭数 (頭)	前年比 (%)
平成23年2月1日	21.0	95.9	1,467	98.9	69.9	103.1
平成24年2月1日	20.1	95.7	1,449	98.8	72.1	103.1

資料：農林水産省「畜産統計」

イ 生乳の需給

平成23年度の生乳生産は、平成22年夏の記録的な猛暑や、平成23年3月の東日本大震災の影響を受け、北海道が前年度比99.9%と2年連続のマイナスとなり、都府県も同97.5%と減少したことから、全国計で同98.7%となった。

次に、牛乳等向け生乳処理量について見ると、大部分を占める牛乳の需要が引き続き減退したことから、同99.3%と前年度をわずかに下回った。(表5)

表5 生乳生産と用途別処理量

(単位：千ト、%)

区分 年度	生乳生産量		処 理 内 訳					
			牛乳等向け		乳製品向け		その他向け	
	数量	前年度比	数量	前年度比	数量	前年度比	数量	前年度比
平成19	8,024	99.2	4,508	97.6	3,433	101.3	83	101.7
平成20	7,945	99.0	4,415	97.9	3,451	100.5	80	95.9
平成21	7,881	99.2	4,219	95.6	3,587	103.9	76	95.5
平成22	7,631	96.8	4,110	97.4	3,451	96.2	70	92.5
平成23	7,534	98.7	4,083	99.3	3,387	98.2	64	90.5

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

ウ 指定乳製品の生産量

平成23年度のバター及び脱脂粉乳の生産量は、生乳生産量減少の影響を受け、それぞれ前年度比89.9%及び90.7%とかなり減少した。全脂加糖れん乳は同105.0%、脱脂加糖れん乳は同107.1%といずれも前年度を上回った。(表6)

表6 指定乳製品の生産量

(単位：トン、%)

区分 年度	バター		脱脂粉乳		全脂加糖れん乳		脱脂加糖れん乳	
	数量	対前年度比	数量	対前年度比	数量	対前年度比	数量	対前年度比
平成19	75,058	96.2	171,441	96.8	36,453	100.9	6,140	101.4
平成20	71,898	95.8	155,282	90.6	38,340	105.2	6,119	99.7
平成21	81,972	114.0	170,179	109.6	37,730	98.4	4,913	80.3
平成22	70,119	85.5	148,786	87.4	36,254	96.1	4,614	93.9
平成23	63,071	89.9	134,912	90.7	38,081	105.0	4,941	107.1

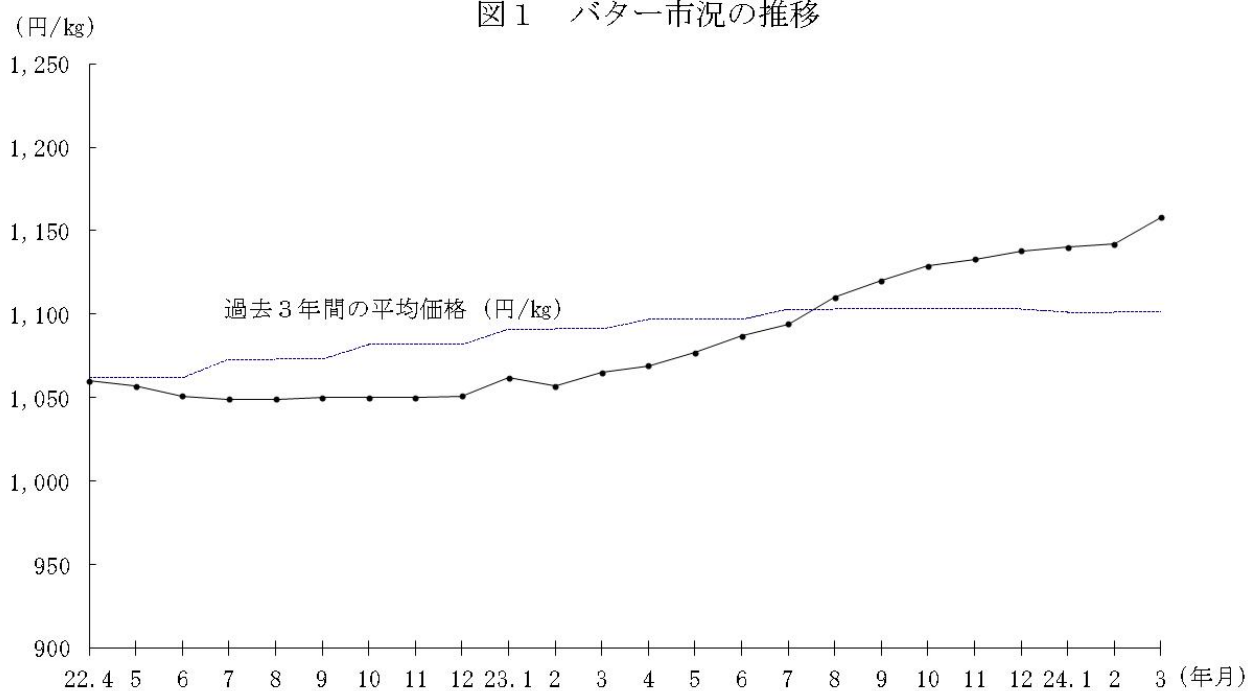
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

エ 指定乳製品の価格動向

平成23年度のバターの市況（大口需要者向け価格：農林水産省牛乳乳製品課調べ、以下同じ。）は、民間在庫量が比較的低い水準にあったことや、生乳生産量の減少を反映し、常に前年同月より上回って推移した。平成23年4月において1,069円/kgであったものが、平成24年3月においては1,158円/kg（前年度比108.7%）となった。

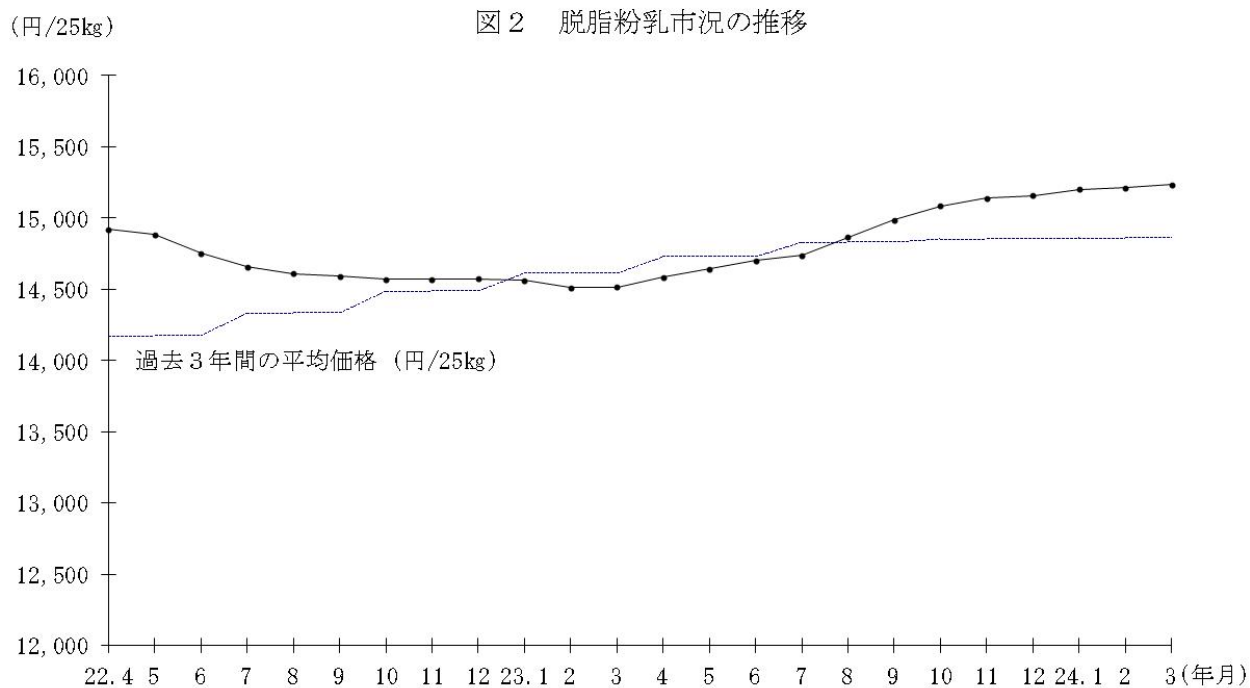
脱脂粉乳の市況は、平成23年7月から前年を上回って推移するようになり、平成24年3月においては15,236円/25kg（同105.0%）となった。（図1、図2）

図1 バター市況の推移



注：価格は消費税込みである。

図2 脱脂粉乳市況の推移



注：価格は消費税込みである。

(2) 指定乳製品等の輸入及び売渡し

平成23年度カレントアクセス分として、平成23年2月と5月に合計7,459トン分のバターの輸入契約を締結し、同5月から11月にかけて平成22年度カレントアクセス分も含め11,600トンを売り渡した。加えて、平成22年夏の猛暑や平成23年3月の東日本大震災等の影響による生乳生産量の減少、それに伴うバター生産量の減少を背景としたバター需給の厳しい需給見通しにより、価格が著しく騰貴する恐れがあったことから、8月に農林水産大臣の承認を受け、合計2,000トンの追加輸入を行った(うち1,400トンは、同時契約による輸入業務委託・売渡入札方式(SBS)で実施)。

なお、平成24年度分については、平成24年2月にバター4,000トンの輸入契約を締結した。

バター以外のカレントアクセス分については、平成23年5月と10月に、ホエイ及び調製ホエイのSBS入札を実施し、4,500トンの契約を締結した。また、5月にSBS入札によりデリースプレッド800トン、バターオイル300トンの契約を締結した。

機構以外の者に係る指定乳製品等の輸入(一般輸入)については、買入・売戻件数は683件で、その数量は438トンとなった。全体としては前年度の653件、420トンからやや増加している。前年度比で大きく数量が変化したものとしては、ホエイの半減(平成22年度157トン・23年度80トン)、バター・バターオイルの増加(平成22年度133トン・平成23年度174トン)が挙げられる。

第7表 指定乳製品等の輸入入札・検収状況

入札年月日	品目	輸入入札数量	落札数量	検収数量	備考
平成23年 1月26日	バター	4,231.0トン	4,231.0トン	4,195.7トン	平成22年度 カレントアクセス分
2月23日	バター	4,000.0トン	4,000.0トン	3,971.7トン	平成23年度 カレントアクセス分
5月26日	バター	3,459.0トン	3,459.0トン	3,428.1トン	同上
8月16日	バター	600.0トン	600.0トン	596.9トン	平成23年度追加輸入分
平成24年 2月10日	バター	2,000.0トン	2,000.0トン	0.0トン	平成24年度 カレントアクセス分

第8表 指定乳製品等の売渡入札状況

入札年月日	品目	売渡入札数量	落札数量	備考
平成23年 5月19日	バター	2,304.8トン	2,304.8トン	平成22年度、23年度 カレントアクセス分
6月16日	バター	2,480.4トン	2,480.4トン	同上
7月14日	バター	1,724.3トン	1,724.3トン	同上
8月18日	バター	1,086.1トン	1,068.2トン	同上
9月15日	バター	1,987.9トン	1,987.9トン	平成23年度 カレントアクセス分
10月13日	バター	1,474.5トン	1,474.5トン	同上
10月24日	バター	596.9トン	596.9トン	平成23年度追加輸入分
11月2日	バター	654.9トン	654.9トン	平成23年度 カレントアクセス分

第9表 指定乳製品等（SBS方式）の売買状況

入札年月日	品目	入札数量	落札数量	売買数量	備考
平成23年 8月23日	バター	1,400.0トン	1,400.0トン	1,391.1トン	平成23年度追加輸入分
平成24年 2月17日	バター	2,000.0トン	2,000.0トン	0.0トン	平成24年度 カレントアクセス分

第10表 脱脂粉乳の売買状況

品目	期首在庫	買入数量	売渡数量	期末在庫
脱脂粉乳	0.0トン	0.0トン	0.0トン	0.0トン

第11表 ホエイ及び調製ホエイ（SBS方式）の売買状況

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
平成23年 5月25日	3,000.0トン	3,000.0トン	2,980.7トン	平成23年度 カレントアクセス分
10月5日	1,500.0トン	1,500.0トン	567.4トン	同上
平成24年 2月16日	3,000.0トン	3,000.0トン	0.0トン	平成24年度 カレントアクセス分
計	-	-	3,548.1トン	

第12表 デイリースプレッド（SBS方式）の売買状況

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
平成22年 5月27日	1,000.0トン	595.0トン	299.0トン	平成22年度 カレントアクセス分
10月28日	1,000.0トン	970.0トン	797.4トン	同上
平成23年 5月24日	800.0トン	800.0トン	797.9トン	平成23年度 カレントアクセス分
計	-	-	1,894.3トン	

第13表 バターオイル（SBS方式）の売買状況

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
平成22年 10月28日	500.0トン	156.6トン	51.7トン	平成22年度 カレントアクセス分
平成23年 5月24日	300.0トン	300.0トン	297.6トン	平成23年度 カレントアクセス分
計	-	-	3,548.1トン	

4 学校給食用牛乳供給事業

安全で品質の高い国内産の牛乳を学校給食用に年間継続して計画的かつ効率的に供給することを推進するため、安定的な供給、消費量の維持・拡大等を図る取組に要する経費を補助している。

(メニュー事業方式の実施状況)

メニュー事業方式(平成12年度から導入)の主な内容は次のとおりであり、平成23年度は8億76万円の補助金を交付した。

- (1) 遠隔地、離島など不利な供給条件を勘案した単価の補助
- (2) HACCP承認を受けている乳業工場より供給される牛乳を対象とした奨励金の交付
- (3) 学校給食で牛乳に加えて提供されるヨーグルトやチーズを対象とした奨励金の交付
- (4) 保育所等において飲用拡大した牛乳を対象とした奨励金の交付
- (5) 学校給食で提供される低温殺菌牛乳を対象とした奨励金の交付